川越農林振興センターだより

埼玉県のマスコット　コバトン

第17号　平成23年1月発行
発行　川越農林振興センター
電話　049-242-1808（代表）
e-mail　r421810@pref.saitama.lg.jp
ホームページ　http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k11/

彩の国
埼玉県

所長あいさつ　川越農林振興センター　坂　芳則

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな年の始まりを健やかにお迎えになられたことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から管内農林業、そして本県農林業の発展のため格別の御支援、御協力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

さて、昨年は春先の低温、降雪、そして梅雨明け後9月まで記録的な高温、少雨が続き、また、10月以降は曇雨天と、生産者の皆様には極めて過酷な一年となってしまいました。特に高温による作物の品質低下は著しく、中でも埼玉県の奨励品種である「彩のかがやき」は、その多くが規格外となるなど平成16年に栽培がスタートして以来、初めてのそして最大の被害となり、県は特別災害の指定を行いました。

この他、狭山市や所沢市などの畑作地帯においては、灌水施設の整備がされていない地域を中心に、里芋などの著しい発育障害が見られ、大きな減収となった地域があります。被害を受けられた生産者の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

ところで農政を取り巻く課題は、国内のみに留まらず、農産物の輸出入を巡って関係各国との駆け引きが続いています。テレビや新聞では連日のようにＦＴＡやＴＰＰの議論が交わされ、生産者の皆様のみならず国民の多くは特にＴＰＰの行方を固唾を呑んで見守っている状況にあります。日本のＴＰＰの参加の是非については、それぞれの立場や意見の違いから着地点を見出すには相当の難航が予想されます。今後の政府間交渉等の行方については注意深く見守っていく必要があります。

このように農業、農政を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。しかし、こうした中でも農業生産に夢と希望をもって前向きな取組をしている生産者や集団があります。これまで商品として扱われていなかった里芋の親芋を資源として捉え直し、「里芋コロッケ（さとコロ）」を創作した狭山市の農家集団や越生町の特産であるゆずを使った「ゆずジュース（ゆず之介）」を開発し、地域を象徴する新たな特産品として、地域に活力を呼び戻した地元企業等、多彩な特産品開発に向けられる内発的な取組が大きな胎動となって地域を動かし始めています。

また、循環型農業として300年余の歴史を持つ三富地域の貴重な地割景観の保全と農業振興をするため、地権者会や市民グループが協働した落葉掃きなどの森林施業に加え、地元の東京国際大学や早稲田大学、そして東京大学、県、市町、ＪＡ、生協等が協働しこうした取組をバックアップする新たな組織として「三富アライアンス」を設立し、活動を始めました。

こうした様々な取組こそが地域を牽引する大きな原動力となるものと思っています。

今後とも、生産者の皆様一人ひとりが農業生産に気概と将来に夢や希望を持てるような農林業施策の展開に努めてまいりますので皆様の一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。